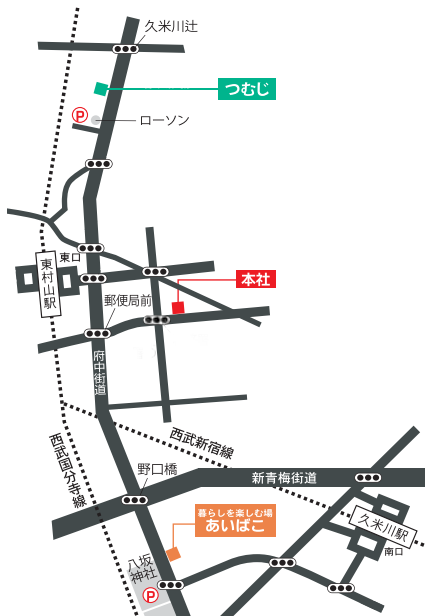




<つむじ>
東村山市久米川町4-34-6
営業 10:00-17:00 (水・木休館)



<あいばこ>
東村山市栄町3-2-5-1F
営業 10:00-17:00




Aiba koto book

つながる暮らしの物語。

「家族ができて、
暮らしをもっと楽しみたい、
毎日の生活を丁寧に通じて
思い出をたくさんつくりたい」
そんな風に思う時、
あなたはどんな物語に
会おうでしょうか――



 永く住み続けられる家
AIBA 相羽建設株式会社

☎ 0120-145-333

〒189-0014 東京都東村山市本町2-22-11

TEL.042-395-4181 FAX.042-393-9838

E-mail: mail@aibaeco.co.jp

Web: http://www.aibaeco.co.jp

詳しくはwebで...

つくること

つながること

そこから生まれる物語



「そろそろ家がほしいよね」
はじまりは何気ない夫婦の会話から。
ちょうど近くで住まいの見学会を
やっていたので、
さっそく家族で見に行ってみた。



家を見に……

わぁ！木の良い香り！
無垢材の床って素足で歩くと
とっても気持ち良い。
子どもも主人も嬉しそう。
こんな家に住みたいなあ。





もっと家のことが知りたくなって

近くのショールーム「あいばこ」に行ってみた。
ここでは地域の先生や作家さんたちが定期的に、
暮らしを楽しむ教室やマルシェをやっているんだって。
このまちに引っ越してきたばかりの私にとって、
身近なつながりを持てる場所があるってすごく嬉しい。



「家って誰がつくっているの？」

ある日、ふと子どもに質問された。

実は私たちもあまり詳しく知らなかったな。

そこで参加してみたイベント「こども工務店」。

鳶さん、建具さん、水道屋さん……他にもいろいろな

職人さんが子どもたちに教えてくれる家づくり体験。

家って大工さん以外にも、こんなにもたくさんの

職人さんたちが力を合わせてつくっていたんだね。

「将来は職人さんになりたいなあ」

帰り道、子どもたちが今日のできごとを

嬉しそうに話してくれた。



*春の「こども工務店」…毎年恒例の3大イベントのひとつ。100人の子供たちが、家づくりの12の仕事職人さんから教わる一日。





聴診器を木の幹にあてると、地面から水を吸い上げている音が。



製材屋さんの自慢の丸太たち。



家に使われる「木」の生まれ故郷へ

家の材料はどこからやってくるんだろう？

今日は東京の山の「木」を見に行くバスツアーに参加。

その地域に育つ山の木を使うと森や林業が循環して、

また新しい元気な木が育つんだって。

未来の子どもたちのためにも、

なるべく地元の木を使って家を建てたいな。

「木」は安心する身近な素材

そういえば家具や食器、こどものおもちゃ……

木っていろいろなものに使われているんだ。

そう気づいたのは

「手しごとフェスタ」に参加してから。

加工もしやすいし、自分でつくと愛着もわく。

永く大切にしたいくなる不思議な魅力が木にはある。



*夏の「手しごとフェスタ」…3 大イベントの一つ。スプーンやお箸など、木を使ったものづくりの楽しさを体感できる一日。





イベントに参加している間も
若い大工さんからベテランの職人さんまで、
みんな気さくに話しかけてきてくれる。
こんな人たちに家を建ててもらえたら、嬉しいな！

家づくりのはじまり

「顔の見える関係を大切にしよう」

そんな想いを込めて、

いよいよスタートした私たちの家づくり。

わが家の棟梁は偶然にも

イベントの時に世話になった大工さん。

現場に行くと、

いつも笑顔で挨拶してくれる。

また来週も会えるかな。



上棟式の様子



長年、家づくりに携わってきた職人さんの手。
たくましくて、美しい。



大工さんの思い出が身近に

いろんな職人さんの手によって
日に日に家ができあがっていく。
完成が近づくと嬉しくもあり、
職人さんたちに会えなくなると思うと
なんだかさびしくもある。
そんなある日、家に
「大工の手」と書かれた家具が届いた。
「あの大工さんがつくってくれた家具だ!」
家族全員が笑顔になった。



ついにわが家の完成！

「こんな家になったら良いよね」

そう家族で話していたことが本当にカタチになった。

これからはじまる暮らしに心がおどる！



新しい暮らしがはじめてから、
日常の何気ない時間が
大事な思い出になっていく。
今度は家族と一緒に何をしようかな？
毎日をワクワクしながら過ごす幸せ。

愉快なご近所さん

私たちの住む「ソーラータウン」には、
気さくな仲間が暮らしている。
お互いがちょうど良い距離感で過ごせて、
まちに住む大人たち全員が
子どもたちの成長を見守ってくれる。
たまに集まってバーベキューをしたり、
市内のマラソン大会に参加したり……
みんなで同じ時間を過ごすと
何倍も楽しい。





みんなで作る緑のカーテン

「夏はなるべくエアコンに頼らず過ごしたいな」

そんなことを考えていたら、

まちのみんなとの恒例行事

「緑のカーテンづくり」に参加することに。

暑い日は葉っぱが日差しを遮ってくれるし、

隙間から涼しい風が入ってくるんだって。

子どもたちも、近所のお友達といっしょに

土をさわって楽しそう。





大きなおうちのような保育園

そういえば、子どもたちが新しく通いはじめた保育園。
実はここも私たちの家を建ててくれた
大工さんたちがつくった施設なんだって。
木でつくられた園内はやわらかくて居心地が良くて、
まるで自分の家にいるみたい。

近所に楽しそうな場所を発見

最近知った「つむじ」という場所。

毎月第一土曜日に「つむじ市」っていうマルシェをやっている。

新鮮な農家さんのお野菜や地元のお店の商品、

ものづくり作家さんの作品、顔なじみのスタッフさん……

気づけば毎月ここに通うのが家族の楽しみに。



家でお店をひらけるかも

「つむじ」で見つけた、ちょっと変わった建物たち。
木でつくられた「無人販売所」や、
秘密基地みたいな小さな建物「倉庫（しゃこ）」。
庭に趣味の場所をつくったり、
自分のお店を持ちたい人が建てるんだって。
私も将来、車に乗らなくなったら家の駐車スペースで
カフェやパン屋さんを開いてみようかなあ。
……うん！なんだかとってもワクワクする。



無人販売所



小さな居場所「倉庫」



建てたあともずっと見守ってくれる 「家のお医者さん」

この家に住みはじめてからちょうど1年。
メンテナンス・リフォーム部の方が、
わが家に点検に来てくれた。
大切に永く住み続けるには、
私たちと同じように家にも定期検診が大事なんだって。
「家守りの会」に入ると毎年点検に来てくれるみたい。
これなら何年経っても安心して暮らせそう。





お世話になったみんなにまた会える

12月、おもちつきの案内状が届いた。

年の瀬に家族で参加してみたら、

家を建てた時にお世話になった大工さんや

職人さんたちみんなが笑顔で迎えてくれた。

つながり続けられる関係があるって嬉しい！



家づくりからつながる物語

最初は家をつくるのが目的だったのに、

気がつけば、できあがっていったのは

家だけじゃなかった。

わが家を建ててくれた職人さんや

気の合うまちの仲間たち、

イベントで知り合った作家さんや

美味しい野菜をつくっている地元の農家さん。

いつのまにか私のまわりには

たくさんの素敵につながりがひろがっていた。

「暮らしを楽しもう」って思うほど

新しい出会いがたくさん待っている。

さあ、明日は何をしようかな？

写真：渡辺慎一（P.7）

寺島由里佳（P.8,9,12,13,14,15,38）

若林栄一（P.19,20,21,22,38）

制作：相羽建設株式会社 / 発行：2016年10月